

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成24年3月8日(2012.3.8)

【公開番号】特開2010-4884(P2010-4884A)

【公開日】平成22年1月14日(2010.1.14)

【年通号数】公開・登録公報2010-002

【出願番号】特願2009-151195(P2009-151195)

【国際特許分類】

C 12 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 12 N 15/00 Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月25日(2012.1.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

核酸のポリメラーゼ連鎖反応（PCR）による増幅におけるキャリーオーバー汚染を減少する方法であって：

a . 前記核酸を含有する試料溶液を提供する段階；  
b . 少なくとも1つの脱塩基部位を伴うDNAを产生するために、DNAグリコシラーゼ活性を有する酵素の存在下で前記核酸を増幅する段階；

c . 脱塩基DNAの分解を促進する少なくとも1つの試薬を提供する段階であって、ここで前記試薬がポリアミンである、段階；  
d . 少なくとも1つの脱塩基部位を伴う前記DNAの分解をひき起こすのに適した条件において前記試料溶液をインキュベートする段階、

を含む方法。  
【請求項2】

前記DNAグリコシラーゼ活性がウラシル-N-DNAグリコシラーゼ活性である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記ポリアミンが挿入ポリアミンである、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記ポリアミンがスペルミジン、スペルミン、トリエチレンテトラミン、およびトリメチレンジアミンからなる群から選択される、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

核酸のポリメラーゼ連鎖反応（PCR）による増幅におけるキャリーオーバー汚染を防止するための反応混合物であって、

核酸の増幅に有用な試薬であって、ここで前記試薬が、1つ以上のオリゴヌクレオチドプライマー、核酸ポリメラーゼ、緩衝液、塩、ならびにdATP、dCTP、dGTPおよび1つ以上のdTTPとdUTPとを含むヌクレオシド三リン酸を含む、試薬、

少なくとも1つの脱塩基部位を伴うDNAを产生するのに適切な試薬、および脱塩基DNAの分解を促進する試薬を含み、  
ここで前記少なくとも1つの脱塩基部位を伴うDNAを产生するのに適切な試薬がウラシル-N-DNAグリコシラーゼ活性を有し、そして前記脱塩基DNAの分解を促進する

試薬がポリアミンである、反応混合物。

【請求項 6】

前記少なくとも1つの脱塩基部位を伴うDNAを產生するのに適した試薬が酵素である、請求項5に記載の反応混合物。

【請求項 7】

核酸のポリメラーゼ連鎖反応（PCR）による増幅におけるキャリーオーバー汚染を防止する方法を実施するためのキットであって、

a) DNAグリコシラーゼ活性を有する試薬、

b) 脱塩基DNAを分解することができる試薬であって、ここで前記試薬がポリアミンである試薬、及び

c) 核酸の増幅に有用な試薬であって、ここで前記試薬が1つ以上のオリゴヌクレオチドプライマー、核酸ポリメラーゼ、緩衝液、塩、ならびにdATP、dCTP、dGTP及び1つ以上のdTTPとdUTPとを含むヌクレオシド三リン酸を含む、試薬、を含むキット。